

専門研修プログラム名	福井大学病院連携施設精神科	専門研修プログラム
基幹施設名	福井大学医学部附属病院	
プログラム統括責任者	小坂浩隆	
専門研修プログラムの概要	<p>本施設群は5つの研修施設によって構成されている。基本的には1年目は研修基幹施設である福井大学病院、2年目は研修連携施設の1つである福井県立病院、3年目は福井県立病院以外の研修連携施設で研修を行う。専攻医は年8名を予定している。基幹施設である福井大学病院は、福井県唯一の特定機能病院である。一般的な症例や他職種医療者とのチーム医療はもちろん、難治性うつ病などに対する電気けいれん療法や、ビデオモニター可能な終夜睡眠ポリグラフィ専用個室におけるてんかんや睡眠障害の精査、神経発達症や被虐待児など児童精神医学領域の診療、摂食障害に対する家族療法や栄養療法も経験し、ほぼすべてのケースに対応できる基礎的な知識を身につける。研究・学会発表についても指導を受ける。指導医は5名。福井県立病院は福井県嶺北地域の主要医療機関であり、スーパー救急病棟での急性期治療からデイケアでの社会復帰まで広くカバーしている。アルコール薬物依存症の治療にも力を入れている。県内唯一の三次救命救急センターや総合診療機能を活かした多職種協働チーム医療やリエゾン・コンサルテーションも幅広く実践されている。指導医は3名。杉田玄白記念公立小浜病院は福井県嶺南地域の主要医療機関であり、多様な精神疾患や身体合併症治療の実践経験を積める。外来待合室ではAAミーティングが毎週行われている。指導医は1名。松原病院は単科精神科病院である。入院はスーパー救急、認知症疾患治療病棟、精神科療養病棟を有している。また、社会復帰関連施設として、大規模デイケアがあり、うつ病の職場復帰を目指したリワークプログラムを行っている。さらに、グループホームや社会復帰作業所もあり、訪問看護とともにこれら地域生活支援を多職種が連携して続けている。指導医は4名。福井県立すこやかシルバー病院は認知症性疾患を対象とした病院である。外来部門、入院部門に加えて軽症レベルから重度レベルまでの認知症を対象とする精神科デイケアや、認知症にかかわる方々への介護教育部門も併設している。指導医は1名。猪原病院は、単科精神科病院である。指導医は3名。福井県嶺南地方の地域精神医療の中核であり、睡眠障害やストレス関連性疾患をはじめ認知症、発達障害など若年から高齢まで幅広く治療を行っている。指導医は3名。福井病院は福井市の郊外に位置する精神科単科病院であるが、同一法人の総合病院が隣接しており、一般的な精神科医療はもちろんのこと、総合病院入院患者に対するコンサルテーション医療に力を入れている。指導医は2名。</p>	
専門研修はどのようにおこなわれるのか	<p>専攻医は精神科領域専門医制度の研修手帳にしたがって専門知識、技能、態度を習得する。1年目は福井大学病院で、2年目は福井大学病院または連携施設で、3年目は、専攻医の志向に応じて大学病院もしくは連携施設で研修を行う。</p>	
修得すべき知識・技能・態度など	<p>知識：患者及び家族との面接法、疾患の概念と病態の理解、診断と治療計画、補助検査法、薬物・身体療法、精神療法、心理社会的療法、精神科リハビリテーション、及び地域精神医療・保健・福祉、精神科救急、リエゾン・コンサルテーション精神医学、法と精神医学（鑑定、医療法、精神保健福祉法、心神喪失者等医療観察法、成年後見制度等）、医の倫理（人権の尊重とインフォームド・コンセント）、安全管理・感染対策。技能（診察、検査、診断、処置、手術など）。技能：患者及び家族との面接、診断と治療計画、薬物療法、精神療法、補助検査法（画像検査読影、脳波判読、各種心理テスト、症状評価の解釈）、精神科救急、法と精神医学、リエゾン・コンサルテーション精神医学、心理社会的療法、精神科リハビリテーション、および地域精神医療。児童・思春期精神障害については、福井大学病院で多種多様なケースを外来および入院で担当するが、連携施設（すこやかシルバー病院を除く）でも経験することができる。アルコール・薬物依存症については、2年目以降に研修を行う福井県立病院では、断酒のためのプログラム入院を運営しており、さまざまな症例を担当することができる。</p>	
各種カンファレンスなどによる知識・技能の習得	<p>職務を通じた学習において、精神医療の様々な理論やモデルを踏まえながら経験そのものを省察して能力向上を図るプロセスにおいて各種カンファレンスを活用した学習は非常に重要である。外来および病棟場面でカンファレンスを行う。外来では主に、初診症例についてカンファレンスを行い、外来における診断、検査、初期治療について外来指導医とともにカンファレンスを行う。病棟においてはカンファレンスにおける入院担当患者の症例提示とフィードバックを、退院支援、地域連携については多職種含むカンファレンスを通じて理解を深める。</p>	
専攻医の到達目標	<p>学問的姿勢</p> <p>専攻医には、以下の3つの学問的姿勢が求められる。常に標準以上の診療能力を維持し、さらに向上させるために生涯にわたり自己研鑽を積む習慣を身につける。また精神医療の発展に貢献するために、学会発表など学術活動を継続する習慣を身につける。また、自らの理解を深めるためにも、学生や研修医に対する教育に積極的に参画する。これらの実現のために、下記の研修目標の達成を目指す。定式化した臨床疑問を設定し、適切に文献を検索し、臨床研究の方法と特長について理解したうえで、文献を批判的に吟味し、その結果を自らの診療に活かすことができる。日々の臨床の中からまれな症例、非典型的な経過や未知の病態を認識し、主に症例報告として、学会発表や論文文化を目指す。また実習中の学生・研修医に対して、1対1の教育をおこない、また学生・研修医向けにテーマ別の教育目的のセッションを企画・実施・評価・改善することができる。</p>	

	<p>医師に必要なコアコンピテンシー、倫理性、社会性</p>	<p>患者、家族のニーズを把握し、患者の人権に配慮した適切なインフォームドコンセントが行える/病識のない患者に対して、人権を守る適切な倫理的、法的対応ができる/精神疾患に対するスティグマを払拭すべく社会的啓発活動を行う/多職種で構成されるチーム医療を実践し、チームの一員としてあるいはチームリーダーとして行動できる/他科と連携を図り、他の医療従事者との適切な関係を構築できる/医師としての責務を自立的に果たし信頼される/診療記録の適切な記載ができる/患者中心の医療を実践し、医の倫理・医療安全に貢献する/臨床現場から学ぶ技能と態度を習得する/学会活動・論文執筆を行い、医療の発展に寄与する/後進の教育・指導を行う/医療法規・制度を理解する。</p>
<p>施設群による研修プログラムと地域医療についての考え方</p>	<p>年次毎の研修計画</p>	<p>1年目：福井大学病院で指導医と一緒に統合失調症、気分障害、器質性精神障害の患者等を受け持ち、面接の仕方、CT・MRIの読影や脳波判読および各種心理テストなどの補助検査法、診断と治療計画、薬物療法及び精神療法の基本を学び、リエゾン精神医学を経験する。とくに面接によって情報を抽出し診断に結びつけるとともに、良好な治療関係を構築し維持することを学ぶ。外来では初診患者の予診や指導医の診察陪席を行う。病院全体の専攻医を対象とした医の倫理に関する研修会に参加して実践に即した医療倫理を学び、院内カンファレンスにおける症例検討や行動制限最小化委員会を通して治療同意能力の評価や同意能力がない場合の治療の必要性などを学ぶ。また、病院全体のスタッフを対象とした医療安全管理や感染制御に関する研修会に各々年2回以上参加する。院内カンファレンスにおける定期的な症例報告、論文抄読や、機会があれば地方会発表を行う。2年目：福井大学病院または福井県立病院で、指導医の指導を受けつつ、自立して、面接の仕方を深め、診断と治療計画の能力を充実させ、薬物療法の技法を向上させ、精神療法として認知行動療法と力動的な精神療法の基本的考え方と技法を学ぶ。精神科救急に従事して対応の仕方を学ぶ。神経症性障害および種々の依存症患者の診断・治療を経験する。緊急入院の症例や措置入院患者の診察に立ち会うことで、精神医療に必要な法律について学習する。1年目に引き続き、院内カンファレンスにおける定期的な症例報告、論文抄読や、機会があれば地方会発表を行う。病院全体の専攻医を対象とした研修会、院内カンファレンスや行動制限最小化委員会を通して全人的な医療倫理を学ぶ。また、病院全体のスタッフを対象とした医療安全管理や感染制御に関する研修会に各々年2回以上参加する。3年目：指導医から自立して診療できるようにする。研修を行う病院は、専攻医の志向に応じてより幅広い選択肢の中から選択する。診断と治療計画及び薬物療法の診療能力をさらに充実させるとともに、認知行動療法や力動的な精神療法を上級者の指導の下に実践する。慢性統合失調症患者等を対象とした心理社会的療法、精神科リハビリテーション・地域精神医療や災害時の精神医療等を学ぶ。児童・思春期精神障害およびパーソナリティ障害の診断・治療を経験する。機会があれば全国学会での発表や論文執筆を行う。1、2年目に引き続き、病院全体の専攻医を対象とした研修会、院内カンファレンスや行動制限最小化委員会を通して全人的な医療倫理を学ぶ。また、病院全体のスタッフを対象とした医療安全管理や感染制御に関する研修会に各々年2回以上参加する。</p>
	<p>研修施設群と研修プログラム</p>	<p>本研修プログラムでは、福井大学病院を基幹施設とし、地域の連携施設とともに研修施設群を構成している。専攻医はこれらの施設群をローテートすることにより、多彩かつ偏りのない充実した研修を行うことが可能となる。福井大学病院は、福井県唯一の特定機能病院である。一般的な症例や他職種医療者とのチーム医療はもちろん、難治性うつ病などに対する電気けいれん療法や、ビデオモニター可能な終夜睡眠ポリグラフィ専用個室におけるてんかんや睡眠障害の精査なども経験し、ほぼすべてのケースに対応できる基礎的な知識を身につける。福井県立病院は福井県嶺北地域の主要医療機関であり、スーパー救急病棟での急性期治療からデイケアでの社会復帰まで広くカバーしている。アルコール薬物依存症の治療にも力を入れている。県内唯一の三次救命救急センターであり、身体合併症やコンサルテーションリエゾン先進医療についても経験を積むことができる。杉田玄白記念公立小浜病院は福井県嶺南地域の主要医療機関であり、多様な精神疾患や身体合併症治療の実践経験を積める。松原病院はいわゆる単科精神科病院であり、精神科救急や、統合失調症を中心に、精神科救急治療から慢性期治療、社会復帰のための大規模デイケアやリワークについて経験することができる。福井県立すこやかシルバー病院は認知症性疾患を対象とした病院である。外来部門、入院部門に加えて軽症レベルから重度レベルまでの認知症を対象とする診療について研修することが可能である。猪原病院は単科精神科病院として、地域精神医療について幅広く学ぶことができる。福井病院は単科精神科病院であるが、隣接する同一法人の福井総合病院においてコンサルテーションリエゾン精神医学について経験することができる。施設群における研修の順序、期間等については、専攻医の意向を中心に、個々の専攻医の希望と研修進捗状況、各病院の状況、地域の医療体制を勘案して、専門研修プログラム管理委員会が決定する。</p>

	地域医療について	主に連携施設での研修中に、デイケアや訪問看護に関する見学・実習を行い、急性期から回復期、維持期における医療・福祉分野にまたがる地域医療・地域連携を経験することができる。
専門研修の評価		① 形成的評価：1) フィードバックの方法とシステム、2) (指導医の) フィードバック法の学習 (FD)/② 総括的评价：1) 評価項目・基準と時期、2) 評価の責任者、3) 精神科専門研修修了判定のプロセス、4) 多職種評価
修了判定		研修基幹施設の研修プログラム管理委員会において、知識・技能・態度それぞれについて評価を行い、総合的に修了を判定する。3年間の研修期間における研修記録にもとづいて、知識・技能・態度が専門医試験を受けるのにふさわしいものであるかどうか、症例経験数が日本専門医機構が要求する内容を満たしているものであるかどうかを、専門医認定申請年の5月末までに専門研修プログラム統括責任者が専門研修プログラム管理委員会において評価し、修了の判定を行う。
専門研修管理委員会	専門研修プログラム管理委員会の業務	研修基幹施設に研修プログラムと専攻医を統括的に管理する研修プログラム管理委員会を置く。研修基幹施設に、研修プログラム責任者を置く。研修プログラム管理委員会は研修プログラム統括責任者、研修基幹施設ならびに研修連携施設の研修指導責任者、研修施設管理者、研修指導医、研修に関連する多職種（看護師、精神保健福祉士、心理技術職など）で構成され、専攻医および研修プログラム全般の管理と継続的改良を行う。研修基幹施設と各研修連携施設は、研修指導医と多職種などの協力により定期的に専攻医の評価を行う。
	専攻医の就業環境	基幹施設および連携施設の研修責任者とプログラム統括責任者は専攻医の労働環境改善と安全の保持に努める。専攻医の勤務時間、休日、当直、給与などの勤務条件については、労働基準法を遵守し、各施設の労使協定に従う。さらに、専攻医の心身の健康維持への配慮、当直業務と夜間診療業務の区別とそれぞれに対応した適切な対価を支払うこと、バックアップ体制、適切な休養などについて、勤務開始の時点で説明を行う。研修年次毎に専攻医および指導医は専攻医指導施設に対する評価も行う（労働時間、当直回数、給与など、労働条件についての内容を含む）。
	専門研修プログラムの改善	指導医からの研修医評価だけでなく、専攻医による研修指導医・指導体制に対する評価も行う。これらの双方向の評価を研修プログラム管理委員会で検討しプログラムの改善を行う。
	専攻医の採用と修了	応募書類（申請書、履歴書、医師免許証（コピー）、臨床研修修了登録証（コピー）または修了見込証明書、健康診断書をWordまたはPDFの形式で、Eメールに添付してプログラム統括責任者あてに提出する。一次選考は書類審査で、二次選考は面接試験で行う。研修基幹施設の研修プログラム管理委員会において、知識・技能・態度それぞれについて評価を行い、総合的に修了を判定する。3年間の研修期間における研修記録にもとづいて、知識・技能・態度が専門医試験を受けるのにふさわしいものであるかどうか、症例経験数が日本専門医機構が要求する内容を満たしているものであるかどうかを、専門医認定申請年の5月末までに専門研修プログラム統括責任者が専門研修プログラム管理委員会において評価し、修了の判定を行う。
	研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件	日本精神神経学会の精神科専攻医新専門医制度規則・各種施行細則に従う。
	研修に対するサイトビジット（訪問調査）	日本専門医機構からサイトビジット（現地調査）が行われる場合、その評価にもとづいて専門研修プログラム管理委員会でプログラムの改善を行う。また、本研修プログラム更新の際には、サイトビジットによる評価の結果と改良の方策について日本専門医機構の総合診療科研修委員会に報告する。
専門研修指導医 最大で10名までにしてください。 主な情報として医師名、所属、 役職を記述してください。		本プログラムには、専門研修指導医は福井大学病院に5名、福井県立病院に3名、杉田玄白記念公立小浜病院に1名、松原病院に4名、福井県立すこやかシルバー病院に1名、猪原病院に3名、福井病院に2名、合わせて19名が在籍している。小坂浩隆（福井大学病院、教授）、大森一郎（福井大学病院、准教授）、水野智之（福井大学病院、講師）、上野幹二（福井大学病院、講師）、村田哲人（福井県立病院、センター長）、山田淳二（松原病院、院長）、升谷泰裕（福井県立すこやかシルバー病院、院長）、猪原久貴（猪原病院、理事長）、大森晶夫（猪原病院、院長）、村山順一（福井病院、院長）
Subspecialty領域との連続性		福井大学病院は、日本総合病院精神医学会の専門医研修施設（同学会のECT研修施設としても認定済み）であり、また一般社団法人子どものこころ専門医機構認定の子どものこころ専門医研修施設でもある。これらのプログラムと連続性を持った研修が可能となるように、当研修プログラム委員会で検討を重ねる。